

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会  
地層処分技術WGの再開について

令和4年11月29日  
資源エネルギー庁

## 1. 背景・目的

- 令和2年11月から、原子力発電環境整備機構（NUMO）において文献調査を実施しているところ。これは、全国で初めて実施する調査であり、今後、別地域で文献調査を実施する場合の評価にも影響を与えるものである。
- こうした中、総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 放射性廃棄物 WG において、今回の文献調査の取りまとめに向け、特に技術的/専門的な事項については、透明性あるプロセスの中で、丁寧に評価していくことの重要性・必要性が示された。
- 同 WG では、そのための議論の場として、「科学的特性マップ」の策定時にその具体的要件・基準等について審議した「地層処分技術 WG」が示され、下記2. 及び3. に掲げる考え方とともに、その妥当性が確認された。
- 以上を踏まえ、原子力小委員会の下で「地層処分技術 WG」を再開する。

## 2. 審議事項等

- 文献調査の実施主体である NUMO が整理する「文献調査段階の評価の考え方（案）」について、技術的/専門的な観点から議論・評価を行う。
- 「地層処分技術 WG」での議論状況は、「放射性廃棄物 WG」に随時共有することとし、「地層処分技術 WG」での議論・評価後には、「放射性廃棄物 WG」に全体を諮る。

## 3. 委員構成

- 「放射性廃棄物 WG」の技術系専門家に加え、審議の中立性・透明性を確保する観点から、地質環境についての関連学会から推薦等により選ばれた専門家、「科学的特性マップ」の策定等に係るこれまでの議論に精通した専門家により構成する。
- 事務局側説明者として、NUMO が参加する。